

ラムサール条約湿地 円山川下流域・周辺水田

The Ramsar Convention on Wetlands
Lower Maruyama River
and the surrounding rice paddies

ラムサール条約とは？

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、世界的に重要な湿地を評価し、保全するための国際条約です。様々な国が協力して水辺の自然を守っていくことを目的としています。

湿地ってどんなところ？

一言でいえば、水のあるところです。湿原や干潟はもちろん、河川、ため池、田んぼ、水深6m以内の海域なども湿地に含まれます。

ラムサール条約の3つの目的

湿地の「保全・再生」と「賢明な利用(ワイズユース)」そして、これらを支え、促進する「交流・学習(CEPA)」が条約の基盤となる3つの考え方です。

1. 保全再生

水鳥の生息地としてだけでなく、私たちの生活環境を支える重要な生態系として、幅広く湿地の保全・再生を呼びかけています。

2. 賢明な利用 ワイズユース

産業や地域の人々の生活とバランスのとれた保全を進めることを提唱しています。賢明な利用とは、湿地の生態系を維持しつつ、そこから得られる恵みを持続的に活用することです。

3. 交流・学習 CEPA

湿地の保全や賢明な利用のために、人々の交流や情報交換、教育、参加、啓蒙活動(CEPA: Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness)を進めることを大切にしています。

豊岡市



なぜ円山川下流域が ラムサール条約湿地に？

Why was the lower Maruyama River registered as wetlands under the Ramsar Convention?

海水が入り込む“汽水域”の円山川下流域と氾濫原の名残を今に残す周辺水田が自然再生によってコウノトリの生息地としてよみがえりました。一度は絶滅したコウノトリの「野生復帰」をキーワードに多様な主体が関わりながら豊かな生態系の再生を目指す取り組みを行ってきました。これらの取組が認められ、2012年「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録されました。



湿地の概要

○名称	円山川下流域・周辺水田
○湿地のタイプ	河川、河口域、河川の中洲、水田、人工湿地
○保護の制度	国指定鳥獣保護区・特別保護地区、国立公園特別地域、河川区域
○登録	2012年7月／2018年10月(拡張)

○国際登録基準	
基準2	絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地
基準8	魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外における漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地

鏡のように美しい水面 円山川下流域

Water surface like a mirror
Lower Maruyama River

円山川下流域の川底は10km進んでも1mほどの高低差しかないため、水の流れはとても緩やかです。風のない日は鏡のような水面に周囲の山々が映し出され、美しい景観が広がります。その反面、水はけの悪さから周辺はたびたび洪水や冠水の被害を受けてきました。円山川の流れは、人のくらしと密接な関係があり、環境保全と治水を両立させようと様々な取り組みが行われています。



円山川と霧

豊岡盆地は周囲を約300m級の山々に囲まれた東西4km、南北10kmの細長い盆地で、霧が発生しやすい地形です。風が弱く夜の冷え込みがきついことで、円山川や周辺の水田から発生した水蒸気が霧となり、盆地に閉じ込められます。高い山麓の数箇所で生まれた真っ白なシルクのペールはあっという間に盆地を包み込み、長時間滞留します。

ひのそ島

円山川にある中州です。水の流れを阻害していた中州の半分を掘削しながら湿地として機能させました。



加陽湿地

円山川と出石川の合流点付近に位置する加陽区では、国土交通省が河川敷の農地を活用して多様な湿地を創出しました。



出石川

円山川の支流。出石川周辺は、絶滅前のコウノトリが最後まで営巣していた地域です。今でも、コウノトリが餌を求めてやってきます。



タコノアシ

河川下流域・河口域の湿地、水田周辺などに生える多年草。絶滅危惧種Ⅱ類。9月頃、たくさんの小さな花を咲かせます。晩秋になると赤く色づき紅葉し、吸盤のような形をした実、反り返った枝振りが茹で蛸のように見えます。

円山川が育む暮らし

Living Amongst a Land of Maruyama River

豊岡の人々は昔から川の恵みを利用した暮らしを営んできました。



ヨシ

円山川の川辺にはヨシ原が広がっています。水・土・空気を浄化する働きを助け、多くの生きものを育てています。茅葺き屋根の材料やヨシペレットとして利用しています。

ヨシペレット



ヨシ舟



伝統工芸 杞柳細工

円山川の川原に自生していた「コリヤナギ」を利用して編まれてきた「柳行李」。杞柳細工は豊岡の伝統工芸です。時代の変化と共に柳行李は鞆へ変化していきました。かばん産業は豊岡を代表する産業です。



川漁

豊かな川の幸を育む円山川下流域。なかでもハマグリやシジミはサイズが大きく肉厚です。10月から春にかけて、鋤簾(じょれん)で川底を掻き、貝を探ります。



湿地で暮らす コウノトリ

The Oriental White Stork life
in Wetlands

かつて、日本で暮らしていたコウノトリは、
1971年豊岡を最後に日本の空から姿を消しました。
兵庫県・豊岡市は1965年から人工飼育に取り組み、
2005年初の放鳥に成功しました。そして、現在、100羽を超えるコウノトリが
豊岡を中心に、日本の空を悠然と舞っています。



コウノトリってどんな鳥？

翼を広げると約2m。川の浅瀬や水田といった湿地を好んで暮らすコウノトリは、魚やカエル、バッタなどを食べる肉食の鳥です。かつては水田を見渡す山すその松の木で、今は主に人工巣塔で営巣しています。私たちの暮らしのすぐそばで生きるコウノトリ。人との関わりが非常に強い鳥です。

3月

4月

5月

6月

7月

8月



産卵



孵化



子育て



巣立ち



湿地で暮らす

コウノトリの子育て

コウノトリは卵を産んでから孵化するまで約1ヶ月かかります。そして、孵化してから約2ヶ月で巣立ちを迎えます。豊岡では、4月下旬から5月中旬にかけて可愛いヒナを見ることができます。



生きものも育む 水田

Rice paddies serve as habit
to living creatures

円山川の周辺に広がる湿地帯を利用して、古くから稲作が営まれてきました。水でつながる豊かな自然と「水田」に代表される人間の暮らしがあることで、様々な生きものが存在し、コウノトリも暮らしていくことができます。



水田近くの人工
塔でヒナを育てる
コウノトリ

コウノトリ育む農法

農薬や化学肥料に頼らないことはもちろん、特徴的な水管理によって多様な生きものを育む農法で、コウノトリの生息を支えています。この農法で生産されたお米は、安全・安心なお米として多くの人から愛されています。



「コウノトリ育むお米」は海外へ!



イトミミズ



シオカラトンボ



トノサマガエル



コハクチョウ

冬の水田に水を張ることによって、アカガエルの産卵場所となります。また、冬鳥が越冬地として利用しています。

タゲリ



美しい湾景 楽々浦湾と戸島

A beautiful bay view
Sasaura Bay and Toshima

山すそに広がる楽々浦湾は、かつては川漁が盛んでした。今も岸边には舟屋が残っています。秋から冬にかけてたくさんのカモ類が楽々浦湾やハチゴロウの戸島湿地に飛来します。



ヒヌマイトトンボ

体長約3cm。絶滅危惧I類。汽水域に生息するトンボです。豊岡では桃島池や楽々浦湾のヨシ原に生息し、成虫は6~7月頃に見られます。



ミズアオイ

水田や沼などに生える一年草の水草。絶滅危惧種II類。8月から10月にかけて、青紫色の小さな花を咲かせます。



鼻かけ地蔵

楽々浦湾のほとりに鎮座する鼻かけ地蔵。「願い事をひとつだけかなえてくれるお地藏様」として大切に祭られています。



ハチゴロウの戸島湿地

大陸から訪れた野生のコウノトリ「ハチゴロウ」が好んだ湿田を「ハチゴロウの戸島湿地」として整備しました。湿地内の人工巣塔では2008年から連続してヒナが巣立っています。

生きものの息吹を感じる 田結湿地

Creating a future for life
in the Tai Wetland

コウノトリの飛来をきっかけに、田結区の住民が中心となり、研究者、企業、NPOなど様々な主体が関わりながら、休耕田を明るい湿地として保全しています。



神水わかめ

田結区の沖合いの海は、円山川の本流と田結川を通して海に流れ込む山の豊かな栄養分が海水と混じりあって溶け込んでいます。荒波で鍛えられたわかめは良質でおいしいと評判です。

ボランティアの取り組み

企業や学生によるボランティアも湿地で汗を流しています。



案内

地元の女性たちによる田結湿地ガイド「案内ガールズ」。ガイド料は1人500円。

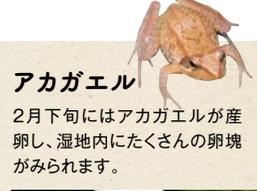
問い合わせ/コウノトリ共生課
TEL:0796-21-9017



オオアカウキクサ
かつては水田に普通に見られた水生シダ。現在では絶滅危惧種。



キタノメダカ
ミナメダカとの交雑種で、非常に貴重な個体群です。



アカガエル
2月下旬にはアカガエルが産卵し、湿地内にたくさんの卵塊がみられます。

